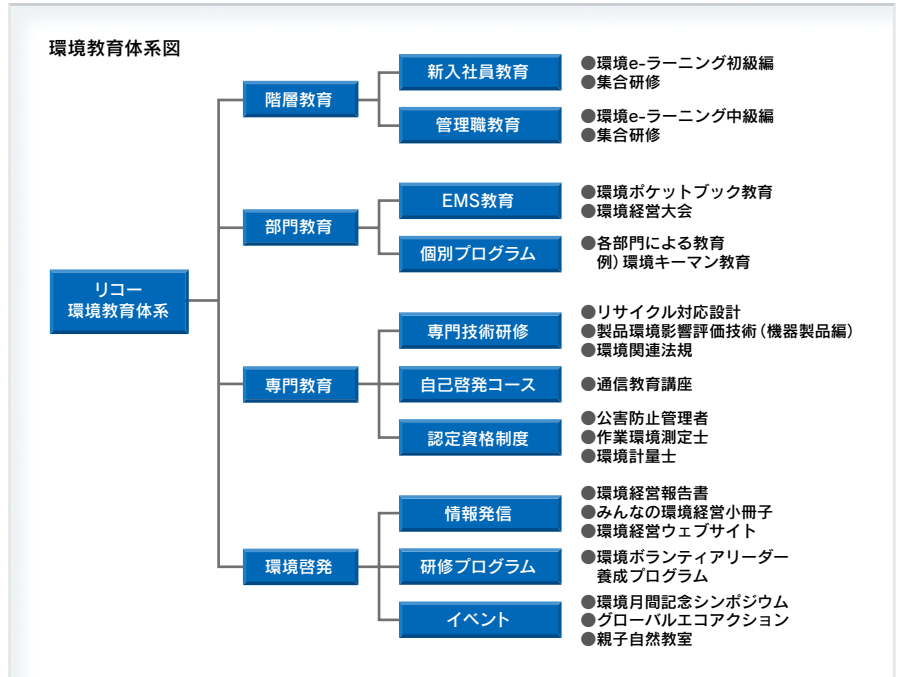


地球市民としての自覚をもち、自ら環境経営を推進できるよう社員の育成に取り組んでいます。

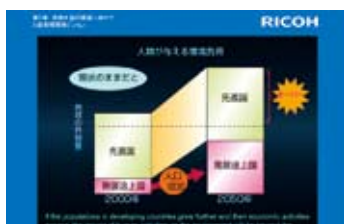
全員参加の環境経営を実りあるものにするには、トップの意思表示や各部門での積極的な活動はもちろん、一人ひとりが自らの業務で環境経営を実践していける社員の育成も重要です。環境経営は企業としての活動ですが、実際は社員一人ひとりが行っている活動だからです。リコーグループには、全世界で10万人を超える社員がいます。社員の意識のもち方によって、同じ活動でも、その成果は大きく異なってきます。「地球市民」「リコーグループの社員」、そして「環境経営を推進するためのスペシャリスト」として、社員が成長していくための教育・啓発活動を行っています。



社員向け環境e-ラーニング 初級編・中級編

《リコーグループ/グローバル》

2006年度、リコー社員を対象に社内LANを通じたe-ラーニング初級編「環境経営はじめの一歩」を実施しました。内容は「地球環境保全における企業の使命」「各部門の環境経営活動事例」などで、環境経営への理解と意識を高めることが目的です。2007年度には、国内グループ社員を対象を拡げました。2008年度は、英語字幕をつけたe-ラーニング初級編ダイジェストCD版を作成し、海外極で実施しました。また、業務の中への効果的な環境視点の取り入れ方、環境経営の効果把握方法などを盛り込んだe-ラーニング中級編を新たに設け、リコー各部門の管理職や環境推進担当者への教育を実施しました。



英語字幕をつけたe-ラーニング初級編

環境関連技術研修講座の開催

《リコーグループ/日本》

環境経営を推進するためのスペシャリストとして、それぞれの職場で、環境に配慮したものづくりや、適切な化学物質の管理を行えるよう、LCAやリサイクル対応設計などの環境関連技術研修講座を実施しています。

環境関連技術研修講座

講座名
ライフサイクルアセスメント(LCA) (基礎)
ライフサイクルアセスメント(LCA) (応用)
サプライ製品安全 (初級)
サプライ製品安全 (上級)
環境関連法規
騒音 (基礎)
リサイクル対応設計
OA機器における熱設計
リコーグループ製品含有化学物質マネジメントシステム (概要)

親子自然教室の実施

《リコーグループ/日本》

2008年7月、リコーとC.W. ニコル・アフアの森財団の共催による「第7回リコー親子自然教室」を長野県黒姫にあるアフアの森で開催しました。このイベントはグループ社員とその家族に自然の大切さを体感してもらうことを目的とした1泊2日の自然体験プログラムです。アフアの森は、作家のC.W. ニコル氏が「日本の森を再び野生動物と人が共生できる豊かな森に戻したい」との思いで20年前から荒廃した里山を少しずつ購入し、天然林の復元を進めており、当日は親子25人が「アートセラピー」「ナイトハイク」「森の宝物探し」などのプログラムを通じ、豊かな森の自然を存分に体験しました。



アフアの森で感じたことを語りあう参加者

リコーグループ環境経営大会 《リコーグループ/グローバル》

2009年2月、「第15回リコーグループ環境経営大会」を開催し、会場のリコー大森事業所に約370人の社員が集まりました。テーマは「今こそリコーグループの環境経営を加速させよう!」で、桜井会長がまず、『低炭素社会づくりと企業の役割』と題して「社会のあるべき姿に向かって、いち早く技術革新領域を定め、推進を期待する」との講話を行いました。続いて近藤社長が『リコーが目指す環境経営』と題して「一人ひとりが今何ができるか、何をやりたいか、考えることを楽しみ、実践してほしい」と述べました。また、第7回目を迎えた「リ

コーグループ環境経営活動表彰式」は大賞2件、奨励賞4件を表彰。環境経営改善活動部門大賞の「Treasure Program」(リコーエレクトロニクス)と、プロセス革新技术部門大賞の「OPCコンパクトラインの開発」*(リコーRS事業部)の事例が発表されました。中国極の地域統括会社リコーチャイナでは、2008年10月、上海の本社ビルにて、第2回 Green Communication Strategy Meeting (「四位一体」環境経営)を開催し、中国ファミリーグループ13社、合計136名が参加しました。中国極では、「開発・設計」「調達・生産」「販売・

サービス」「物流」の4つの機能をもつ各社が一体となって環境経営を行っており、当日は、年間を通じての分科会の活動状況が報告されました。 ※:36ページ



桜井会長の講話を聞きリコーグループ社員

TOPIC

全員参加の環境経営 《リコーエレクトロニクス/アメリカ》



改善の気づきを促す「トレジャープログラム」を導入し、全員参加の環境経営を実践しています。

環境とコスト視点で

改善ポイントを発見する「トレジャーマップ」

アメリカの生産会社リコーエレクトロニクス(REI)は、従来から全員参加の環境経営活動を推進してきましたが、2002年から「トレジャープログラム」を導入し、活動のさらなるスパイラルアップを図っています。このプログラムの特徴は、作業工程などの無駄を「財宝」と考え、発見した財宝を改善につなげていく点にあります。「トレジャーマップ」には、調達、組立、品質、物流、事務所業務、環境など、10の工程で恒常的に大きな無駄が発生している項目が列挙され、社員はこのマップを頼りに、それぞれの現場で財宝を探し出して、改善提案を提出します。

発見した無駄を改善につなげ、

環境負荷とコストの改善効果を「見える化」

REIでは、これまでに多くの財宝を発見し、天窗を使った省エネや、パレットのリユース、型抜き効率向上などの改善を実施しました。改善内容と効果は「トレジャーデータベース」に登録され、環境負荷とコスト削減効果が「見える化」されます。これをもとに提案が評価され、社員に「トレジャーポイント」が付与され、ポイントを貯めた社員は、給与への上乗せで賞金を受け取ることができる仕組みになっています。社員全員がわかりやすく、モチベーション向上につながる仕組みを構築することで、2008年度は1,515件の改善が実施され、130万トンのCO₂排出削減と、228万ドルのコスト削減効果を上げました。

